（C）日刊スポーツ新聞社

柔道女子78キロ超級 薮内 2連覇

元72キロ超級全日本女王 母智美さんに続け

女子78キロ超級決勝 内股で技ありを奪い、抑え込む北海・薮内（左）（撮影・浅水友輝）

高校総体道予選

◇21日◇柔道ほか◇函館アリーナほか

柔道の女子個人は、78キロ超級で薮内美咲（北海3年）が2連覇で団体との2冠を決めた。母智美さん（旧姓松村）は、三重・名張高3年の84年に当時の最重量級72キロ超級で講道館杯全日本体重別選手権で優勝した実力者。母の背中を見て育った1人娘が、全国で躍進を狙う。70キロ級では昨年総体2位の田嶋由佳（東海大札幌3年）が2連覇で全国切符を手にした。

2年連続 2冠「個人8強 団体16強超え」全国で飛躍期す

同門対決

北海のチームメート対決になった女子78キロ超級決勝。昨年覇者の薮内は落ち着いていた。「普段の練習から1度も負けたことがない相手。手の内は知られているが後輩には負けられない」。2学年下の川原凜を序盤から攻め込んだ。相手に指導2が与えられ、残り32秒に内股で技あり。最後まで試合を支配しての完勝に「内容よりも勝ててよかった」と喜んだ。

全道王者として臨んだ昨夏総体で1回戦負け。「全国で勝つためには体力をつけて、技も磨かないといけない」。日々の稽古で男子と組み合い、力とスタミナをつけた。女子相手に技を繰り出す動きの確認を徹底した。さらに5月の仙台合宿で大学生と対戦し、技術を磨いた。迎えた今大会。決勝までの2試合は開始早々に投げ技で崩し、一本勝ちを収めた。

成長した

168センチの柔道少女の母智美さんは高校3年時、講道館杯全日本体重別選手権を制した。大学を経てミキハウスに入社。全日本強化指定選手の逸材だった。札幌市内で柔道を教えていた母に連れられ、薮内も自然と畳に立つようになった。普段、母子の間に柔道に関する会話はない。この日、母の輝かしい実績を初めて知り「（講道館杯で）優勝してるんですか!?」と驚いた。智美さんは「北海に入学して本当に成長した。去年よりも力強くなった」と目を細めた。

前日、主将としてチームを2年連続団体優勝に導いた。斉藤順道監督（39）は「前向きでリーダーシップがある。重量級の子は手を抜く子もいるけど、薮内はほっといても練習する」と信頼を寄せる。この日、北海勢6人が決勝に進出。薮内は「負けた子も2年生2人、1年生1人なので来年頑張って欲しい」と、敗れた4選手を気遣った。

母が日本の頂点に立った高校ラストイヤー。昨年の雪辱を期す全国大会（8月8日～、三重）へ「個人でベスト8、団体では昨年（16強）を超えたい」。偉大な柔道家の血を受け継いだサラブレッドが、躍進を誓った。【浅水友輝】

柔道

【女子】▽個人48キロ級決勝
木村（札幌山の手）55秒 小内刈り 野上（帯広農）
▽同52キロ級決勝
長野（北海）優勢 亀田（恵庭南）
▽同57キロ級決勝
瀬川（東海大札幌）優勢 山口（北海）
▽同63キロ級決勝
原口（札幌日大）1分9秒 上四方固め 打越（北海）
▽同70キロ級決勝
田嶋（東海大札幌）僅差 佐々木（北海）
▽同78キロ級決勝
福士（札幌日大）24秒 けさ固め 青沼（恵庭南）
▽同78キロ超級決勝
薮内（北海）優勢 川原（北海）

70キロ級昨年総体準V 田嶋V2

70キロ級で昨年総体準Vの田嶋が全道2連覇を果たした。決勝で札幌地区予選時に苦戦した佐々木南（北海2年）と再戦。「研究されていたが攻めていった」。積極的に技をしかけ主導権を奪うと、反対に相手が消極的と見なされ指導を2つ受け、僅差勝ちを収めた。

栃木出身の全道女王は「違う場所で成長したい」と、親元を離れて津軽海峡を渡った。高校入学当初は環境の変化やケガに苦しんだ。同じ寮生の励ましで乗り越え、精神的に強くなった。「（全国で）優勝するには相手よりも先に動いてチャンスを作り出さないといけない」と、昨年のリベンジに燃えている。

あこがれは中学時代に道場で見た12年ロンドン五輪金メダリスト松本薫（30＝ベネシード）。「練習から気迫がすごかった」と肌で感じた。松本は東京・藤村女2年時の04年に総体57キロ級を制している。「高校最後なので優勝を目指したい」と田嶋。あこがれの存在に近づく夏にする。

女子70キロ級決勝 攻め込む東海大札幌・田嶋（上）

78キロ超級の薮内ら各階級の優勝者たち

48キロ級 木村初優勝

○…48キロ級は木村明日香（札幌山の手3年）がケガを乗り越え初優勝を決めた。高校2年の春休みに右肘靱帯（じんたい）を損傷し全治6カ月と診断。左腕から移植する手術を受け、柔道ができない時期があった。それでも腐らず、ケガの期間は毎日1時間の走り込みと学校の階段を1階から4階まで20往復し、足腰を鍛えた。最後の夏で全国切符をつかみ「インターハイでは1つでも多く勝って上にいきたい」と意気込んだ。

52キロ級 長野も初V

○…52キロ級は長野友香（北海3年）が初制覇した。準決勝はゴールデンスコア方式の延長戦で、指導差2つの僅差勝ちで同校対決を制すと、決勝では「得意の寝技が決まった」とけさ固めで技ありを奪い、そのまま逃げ切った。初優勝で全国出場を決め「1つでも多く勝って終わりたい」と話した。

63キロ級 原口初頂点

○…52キロ級とともに今大会最多29人出場の63キロ級で、原口茜（札幌日大3年）が初優勝を決めた。「いつも以上に良い動きができた」と決勝では得意の足技で崩し、上四方固めで一本勝ちした。妹と福岡で同居する母が遠路駆けつけた試合で結果を残し「優勝できて良かった」と喜んだ。

卓球（名寄スポーツセンター）

【男子】▽団体準決勝
北海道科学大高 3－1 函館大有斗
札幌龍谷学園 3－1 北海
▽同決勝
北海道科学大高 3－1 札幌龍谷学園
▽ダブルス準決勝
安達・奥住（駒大苫小牧）3－0 樋口・大野（札幌龍谷学園）
園家・長門（北海道科学大高）3－0 姉崎・山本（駒大苫小牧）
▽同決勝
安達・奥住（駒大苫小牧）3－1 園家・長門（北海道科学大高）
▽代表決定戦
姉崎・山本（駒大苫小牧）3－2 樋口・大野（札幌龍谷学園）

【女子】▽団体準決勝
札幌大谷 3－0 札幌龍谷学園
駒大苫小牧 3－0 札幌光星
▽同決勝
駒大苫小牧 3－2 札幌大谷
▽ダブルス準決勝
後木・杉渕（駒大苫小牧）3－0 高山・市嶋（札幌大谷）
鈴木・寺西（駒大苫小牧）3－2 小森・桜庭（駒大苫小牧）
▽同決勝
後木・杉渕（駒大苫小牧）3－2 鈴木・寺西（駒大苫小牧）
▽代表決定戦
小森・桜庭（駒大苫小牧）3－0 高山・市嶋（札幌大谷）

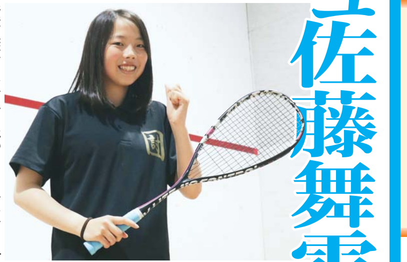
北海道 HOKKAIDO

スカッシュ佐藤舞雪 世界デビュー

26日開幕ペナンジュニア「まずは1勝」

スカッシュ界のホープが世界に羽ばたく。旭川西高1年の佐藤舞雪（15＝Ash）が、26日開幕の「ペナンジュニア」（マレーシア）で国際大会デビューする。「不安もあるけど、楽しみです。まずは1勝できるように頑張りたい」と抱負を語った。

旭川愛宕東小6年の秋、兄の影響で競技を始めた。「学校に行って、スカッシュして、勉強して、寝るっていう生活」。週5日、1日3時間練習とスカッシュに打ち込み、競技歴3年半ながら、今年3月の全日本ジュニアU17部門で準優勝。続く6月の全日本U23選手権で、大学生相手に3位に食い込み、日本選手権の切符を手にした。指導するスカッシュ学校「Ash」代表の村田洋介コーチ（38）が「肩の可動域が広く、理解力が高い。技術はすでに完成されつつあるが、日本選手権に3年で出場するなんて…」と驚く成長スピード。18年度の日本協会ジュニア強化指定候補に選出された。



激しいラリーをする佐藤 (上)初の国際大会に意気込む佐藤

今月15～17日開催の北海道オープンに出場。高校生で唯一決勝トーナメントに進出した。1回戦で過去5度優勝の深見友紀恵（50＝SQ－CUBE札幌）に敗れ「後半についていける体力と、疲れていてもどうにかできる技術が必要」とさらなるレベルアップを誓った。

「ペナンジュニア」はアジア最大規模の世代別大会。世界10カ国以上、400人を超える若手選手が集結する。出場するU17部門で、現日本ランク1位の渡辺聡美（19＝メッドサポートシステムズ）が15年に優勝。7月にジャパンジュニア、8月に香港ジュニア、9月に全道選手権大会と、大事な試合が続く。佐藤は「経験を積んで北海道選手権で高校3連覇するのが今の目標。夢のまた夢だけど、将来的には日本代表も目指したい」。夢への第1歩を、ペナンの地から踏み出す。【浅水友輝】

中3で道8強 ◆佐藤舞雪（さとう・まゆき）2002年（平14）12月9日、旭川市生まれ。幼少期から旭川東陽中入学まではピアノも習う。中学1年からは競技かるたも並行。スカッシュでは中学3年時に北海道選手権に初出場しベスト8。好きな歌手はAAA。157センチ。血液型はB。家族は両親と兄。

◆スカッシュ◆ 縦9・75メートル、横9・4メートル、高さ5・6メートルの前後左右4面の壁と床に囲まれたスペースで、ラケットを使い、交互にボールを打ち合う競技。床に2バウンドする前に、正面の壁にノーバウンドで打ち返さなければいけない。1ゲームは11点先取で、1試合は5ゲームマッチ。五輪種目入りを目指し、過去4度候補に挙がるも落選している。

竜二実戦復帰

ミニゲーム参加

長期離脱していたコンサドーレ札幌DF河合竜二（39）が21日、札幌・宮の沢での全体練習に完全合流した。昨年11月、清水戦で左足腓骨（ひこつ）骨折、左足三角靱帯（じんたい）損傷を負い、リハビリが続いていた。パス練習などには参加していたが、この日初めてフルメニューを消化。ミニゲームではセンターバックに入り、負傷以来の実戦練習を行った。「第1歩としては良かった」と笑顔を見せた。

1月に始まった沖縄、米ハワイでのキャンプには同行できず、2月中旬の熊本キャンプから途中参加した。当初の実戦復帰メドは5月。回復は遅れたが、焦らずにリハビリに励み、ワールドカップによる中断期間で、ついに前進した。

今季就任したペトロビッチ監督が求めるサッカーを初めて体感。パスでつなぐ複雑な動きを求められ「理解するのが難しい。外から見ているのと中では全然違う」と戸惑いもあった。久しぶりにピッチを駆け回り「マジでキツい」と息も切れたが、パスをカットするなど、昨季リーグ戦20試合に出場したベテランの安定感も見せていた。7月11日天皇杯3回戦J2福岡戦（レベスタ）出場が目標。「ここから徐々にコンディションが勝手に上がるのを祈るだけ」と完全復活を目指す。【保坂果那】

ミニゲームでパスを出す河合

チャナ歯検合格

⚽…練習後、選手はスポンサーの「新札幌いった歯科」による検診を、クラブハウスで受けた。スポーツ選手にとって、歯の不調はプレーにも影響する。MFチャナティップは「クラブでこのような検診をやっていただいて本当にありがたいです。タイのクラブではこのようなことはなかった。（自分は）虫歯もなく健康でした」。コンディション良好と太鼓判を押され、安心していた。

歯科検診を受けるチャナティップ（左）

情報宅配便

◇ゴルフ ☆日本女子アマゴルフ選手権（21日、埼玉・嵐山CC＝6646ヤード、パー72）▽第3日 ❶吉田優利（麗沢高）216（73、71、72）❷吉本（JGAジュニア会員）217（73、70、74）⑭伊藤（恵庭）223（76、73、74）㉝政田（セベズヒル）229（76、77、76）

◆イベント 映画「ハン・ソロ／スター・ウォーズ・ストーリー」の公開（今月29日）を控え、札幌駅前通り地下広場・憩いの空間で21日、撮影イベントが行われた。同作では、シリーズ屈指の人気を誇るハン・ソロの知られざる若き日が明らかになる。イベント会場には、ハン・ソロの相棒チューバッカの等身大フィギュアが展示され、多くの来場者が記念撮影を楽しんだ。また、撮影した写真をSNSに投稿したファンには、抽選でTシャツなどのオリジナルグッズもプレゼントされた。

チューバッカの等身大フィギュアと撮影するイベント参加者

レイアウト二木康充